

平成 26 年 12 月の解説（府県天気予報）

【12 月の天候状況】

上旬は、1 日に低気圧が日本付近を通過した後、冬型の気圧配置に変わり、日本付近には断続的に強い寒気が流れ込みました。このため、北・東・西日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、北・東・西日本太平洋側では晴れの日が多くなりました。全国的に気温が低く、降雪量が東日本日本海側でかなり多く、北・西日本日本海側で多かったほか、徳島県でも局地的に大雪になりました。特に、東日本日本海側の降水量は平年比 281%となり、12 月上旬としては旬の統計を開始した 1961 年以降で最も多くなりました。

中旬は、低気圧が日本付近を数日の周期で通過し、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となり、日本付近に強い寒気が流れ込みました。このため、東・西日本の気温はかなり低く、北・東・西日本日本海側では曇りや雪または雨の日が多くなりました。特に、東日本日本海側の降水量は平年比 206%となり、12 月中旬としては旬の統計を開始した 1961 年以降で最も多くなりました。北・東・西日本太平洋側では、晴れの日が続かず、低気圧や強い寒気の影響で曇りや雨または雪の日がありました。16 日に低気圧が発達しながら日本付近を通過し、18 日から 19 日にかけて強い冬型の気圧配置となりました。このため、北海道東部を中心に北日本から東・西日本日本海側の広い範囲で大雪や暴風雪となりました。17 日朝から昼前にかけては、根室地方の沿岸で顕著な高潮が発生したほか、18 日は名古屋市でも積雪の深さが 23cm に達する大雪となりました。

下旬は、オホーツク海からアリューシャン近海で低気圧が発達したため、旬の中頃に北・東日本を中心に強い冬型の気圧配置となりました。このため、北・東・西日本日本海側では、曇りや雪または雨の日が多く、北・東日本日本海側の山沿いを中心に降雪量が多くなりました。

【12 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)と同じ 83%で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 82%でした。各地方の適中率では、明日予報は、北陸地方で 8 ポイント高くなった一方、四国地方で 7 ポイント、九州北部地方で 11 ポイント低くなりました。明後日予報の適中率は、近畿地方と東日本の各地方で 4~9 ポイント高くなった一方、四国地方と九州南・北部地方で 7~11 ポイント低くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値以下となりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 1.3 となりました。全ての地方で予報誤差が例年値より小さくなり、特に九州南部地方では 0.5 小さくなりました。

^(注) 例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2 月の天気予報の利用にあたって】

2 月は 1 月と並んで 1 年で最も気温が低い月ですが、低気圧が発達しながら日本海から北日本に進むと、強い南よりの風が吹いて気温が急激に上がり、低気圧通過後は強い北よりの風が吹いて気温が急速に下がるなど、気温が大きく変化することがあります。また、低気圧が日本付近を発達しながら通過する場合、暴風や大雪、なだれなどの災害が発生しやすくなります。災害に備えて、各地の気象台が発表する最新の気象情報や注意報、警報に留意するとともに、日々の天気予報を利用して気温の急激な変化にも備えてください。